

新型コロナウイルスだけではない!!

～インフルエンザでの死亡者数、アメリカで年間1万人超～

新型コロナウイルスは、世界各国に感染者が広がり、日々その数が更新されている。日本における水際対策は破綻し、市中感染状態となり、2月28日(金)には安倍首相が週明け3月2日(月)より春休みまでの期間、全国の小中学校、高等学校、特別支援学校の一斉休校の要請を出した。

ニューヨークダウや日経平均株価は、リーマンショック並みに大幅下落し、街ではマスクはおろか、トレイットペーパーやティッシュまでもが売り切れとなり、各種イベントも中止になるなど経済や市民生活にも大きな影響が出ている。

これほどまでにパニックに近い状態となっているのは、①未知のウイルスであり、正体がまだよく分かっていない、②特に一旦陰性となった方が再度陽性となるなど、既存のウイルスとは異なる現象が出ている、といった特徴があるからと思われる。また、③陽性か否かの判定のPCR検査体制が不十分な点が、それに輪をかけている。特に③に対しては、テレビの情報番組で国立感染症研究所が検査を独占し、そのために十分な検査体制がとれていない点を岡田晴恵氏(白鷗大教授・国立感染症研究所ウイルス部元研究員)や上昌広氏(特定非営利活動法人医療ガバナンス研究所理事長・元東京大学

医科学研究所特任教授)が指摘するなど体制のあり方が非難されている。

その一方で、果たして既存の感染症と比べて致死率はどうか?といった指摘が不足しているのも気になる。

実はインフルエンザでも国内だけでも毎年相当数の死亡事例があるのだ。以下は厚生労働省の公式ホームページの「新型インフルエンザに関するQ&A」で紹介されている内容である。

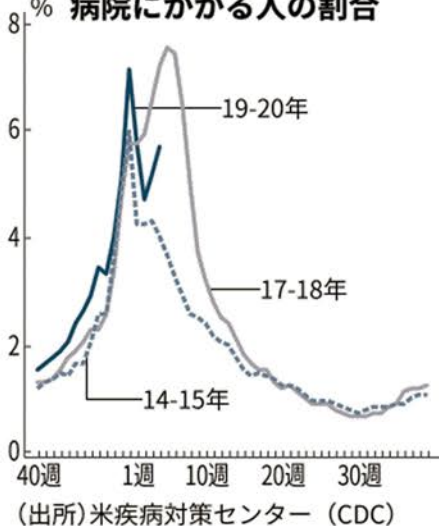
Q.通常の季節性インフルエンザでは、感染者数と死亡者数はどのくらいですか。

A.例年のインフルエンザの感染者数は、国内で推定約1000万人いると言われていています。国内の2000年以降の死因別死亡者数では、年間でインフルエンザによる死亡数は214(2001年)～1818(2005年)人です。また、直接的及び間接的にインフルエンザの流行によって生じた死亡を推計する超過死亡概念というものが、この推計によりインフルエンザによる年間死亡者数は、世界で約25～50万人、日本で約1万人と推計されています。

アメリカにおいても以下のような事例がある。東洋経済オンラインでは「アメリカ疾病対策センター(CDC)は、昨年10月1日～2月1日までの間に、アメリカ国内で合計2200万～3100万人がインフルエンザにかかり、来院は1000万～1500万件、入院件数は21万～37万人、死亡者は1万2000～3万人となったと推定している」との記事が紹介されている。

未知の新型コロナウイルスに大騒ぎしているが、既存のインフルエンザなどと比較し、冷静な対応が求められている。

米国でインフルエンザを理由に % 病院にかかる人の割合



【参照】

死者1万人超、アメリカで「インフル猛威」のなぜ | 健康 | 東洋経済オンライン | 経済ニュースの新基準
<https://toyokeizai.net/articles/-/330373?display=b>
 新型インフルエンザに関するQ&A | 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/02.html#>
 岡田晴恵教授が涙で訴え!「感染研の先生方は自分の実績より人命を優先してください」
 PCR検査拒否の真相はここだった
<https://www.j-cast.com/tv/2020/02/28380844.html>
 サンデーモーニングで国立感染症研究所の闇を問題提起
<https://www.bookservice.jp/2020/03/01/post-41616/>



美楽からの一言

本当に気をつけ、対処すべきは何なのか? 正確な情報公開と「正しく怖がる」事が、今一番必要とされている。